

第3回長野県特定家畜伝染病（豚コレラ）防疫対策本部会議

日時：令和元年7月24日（水）15:15～

場所：県庁西庁舎 災害対策本部室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）経 過

（2）防疫対応の強化等について

ア 野生イノシシにおける豚コレラ防疫対策に係る体制について

イ 養豚農場における防疫対策の強化

ウ 野生イノシシ対策の強化

エ 県、市町村、野生鳥獣対策関係者の防疫対策の徹底

オ 地域住民・登山者等へのまん延防止のための対策の強化

4 閉 会

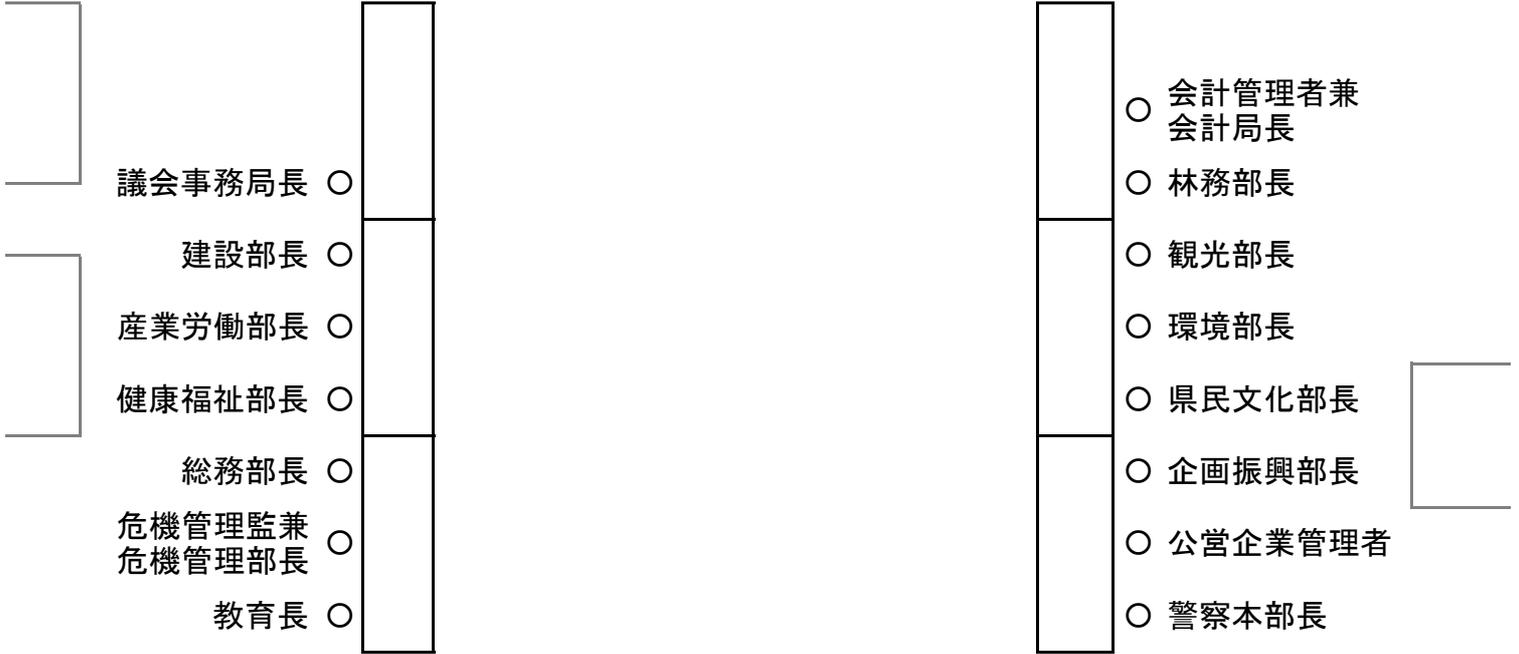
第3回 長野県特定家畜伝染病（豚コレラ）防疫対策本部会議 配席図

令和元年7月24日（水）

災害対策本部室 15:15～

スクリーン

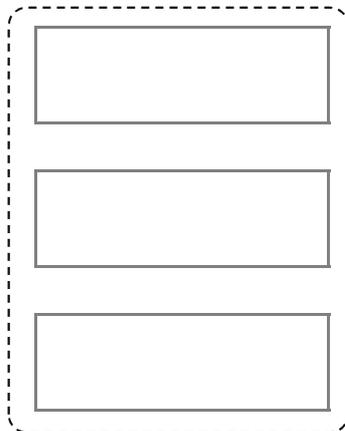
(10地域振興局とテレビ会議で接続)



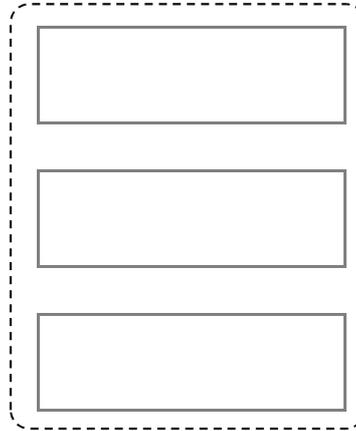
○ 副知事 太田寛
○ 知事 阿部守一
○ 農政部長
○ 園芸畜産課長

受付

出入口



県関係者



報道関係者

豚コレラの発生状況と野生イノシシの感染確認検査の状況

国内の発生状況

1 豚 31事例(防疫措置対象農場:65農場3と畜場 122,088頭) H30(2018).9.9~R1(2019).7.23

発生県	発生状況
長野県	1農場1と畜場 2,482頭 発生農場(宮田村 2,444頭)、と畜場(松本市 38頭)
岐阜県	20農場2と畜場 56,908頭
愛知県	42農場 61,262頭
滋賀県	1農場 699頭
大阪府	1農場 737頭
三重県	1農場 再検査中

2 野生イノシシ H30(2018).9.14 ~ R1(2019).7.23

陽性確認県	検査状況
長野県	陽性 15頭、陰性 103頭 (計 118頭)
岐阜県	陽性 734頭、陰性 894頭 (計 1,628頭)
愛知県	陽性 44頭、陰性 579頭 (計 623頭)
三重県	陽性 4頭、陰性 40頭 (計 44頭)
福井県	陽性 6頭、陰性 25頭 (計 31頭)
その他都府県	陽性 0頭、陰性 269頭 (計 269頭)

本県における野生イノシシの豚コレラ感染確認検査の状況

1 検査状況

区分	死亡		捕獲		合計	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
県全域での検査状況	59	12	59	3	118	15

2 地域別内訳

発見地域 (地域振興局別)	死亡		捕獲		合計	
	検査頭数	陽性	検査頭数	陽性	検査頭数	陽性
佐久	—		—		0	
上田	6		—		6	
諏訪	1		—		1	
上伊那	6		8		14	
南信州	5		22	1	27	1
木曾	14	9	29	2	43	11
松本	8	3	—		8	3
北アルプス	7		—		7	
長野	10		—		10	
北信	2		—		2	
合計	59	12	59	3	118	15

3 県内での野生イノシシの豚コレラウイルス感染事例

番号	発見日	発見場所	個体情報			判定
			発見状態	成子の別	性別	
1	7月8日	木曾町	死亡	成獣	オス	陽性
2	7月12日	根羽村	捕獲	成獣	メス	陽性
3	7月13日	木曾町	死亡	成獣	メス	陽性
4	7月14日	木曾町	死亡	成獣	メス	陽性
5	7月15日	木曾町	捕獲	成獣	メス	陽性
6	7月17日	木祖村	死亡	子	メス	陽性
7	7月18日	上松町	死亡	成獣	メス	陽性
8	7月18日	大桑村	死亡	成獣	メス	陽性
9	7月20日	木曾町	死亡	子	オス	陽性
10	7月20日	上松町	死亡	成獣	メス	陽性
11	7月20日	木曾町	死亡	子	メス	陽性
12	7月20日	塩尻市	死亡	子	メス	陽性
13	7月21日	木曾町	捕獲	子	オス	陽性
14	7月22日	塩尻市	死亡	成獣	オス	陽性
15	7月22日	塩尻市	死亡	子	オス	陽性

※陽性となった野生イノシシの発見場所(塩尻市7月20日)から半径10km圏内に養豚農場が2戸存在し、監視対象農場に該当

4 監視対象農場における臨床検査及び浸潤状況検査（令和元年7月22日実施）

(1) 対象農場

7月20日に塩尻市において豚コレラウイルスに感染した野生イノシシが発見された地点から半径10km以内の2農場

(2) 検査内容

ア 臨床検査（死亡豚や、食欲減退や結膜炎等の豚コレラ特定症状の有無等の確認）

イ 浸潤状況検査（血液検査、豚コレラPCR検査、豚コレラELISA検査）

※県が独自に実施

(3) 検査結果

2農場ともに臨床検査「異常なし」、浸潤状況検査「陰性」

(4) 今後の対応

ア 対象農場の飼育者は、当面の間、農場の状況（豚の様子）について毎日家畜保健衛生所に報告する

イ 監視対象農場検査プログラムに基づき「と畜場出荷時検査」及び「他農場移動時検査」を実施する

今後の豚コレラ対策について

2019. 7. 24 長野県特定家畜伝染病防疫対策本部

ア. 野生イノシシにおける豚コレラ防疫対策に係る体制について

イ. 養豚農場における防疫対策の強化

- ① 県内の全養豚農場（69 戸）への地域振興局・家保・農業技術課専門技術員のチームによる防疫体制の確認・指導の実施（松本（11 戸）及び上伊那（4 戸）では直ちに実施）
- ② 養豚農場へのイノシシの侵入防止柵等の設置支援の全県への拡大
- ③ 専門家による指導等ネズミ・昆虫等の侵入対策の強化への支援

ウ. 野生イノシシ対策の強化

- ① 松本、上伊那及び諏訪地域における経口ワクチンの緊急散布
- ② 経口ワクチンの本格散布に向けた効果的な散布エリアの検討

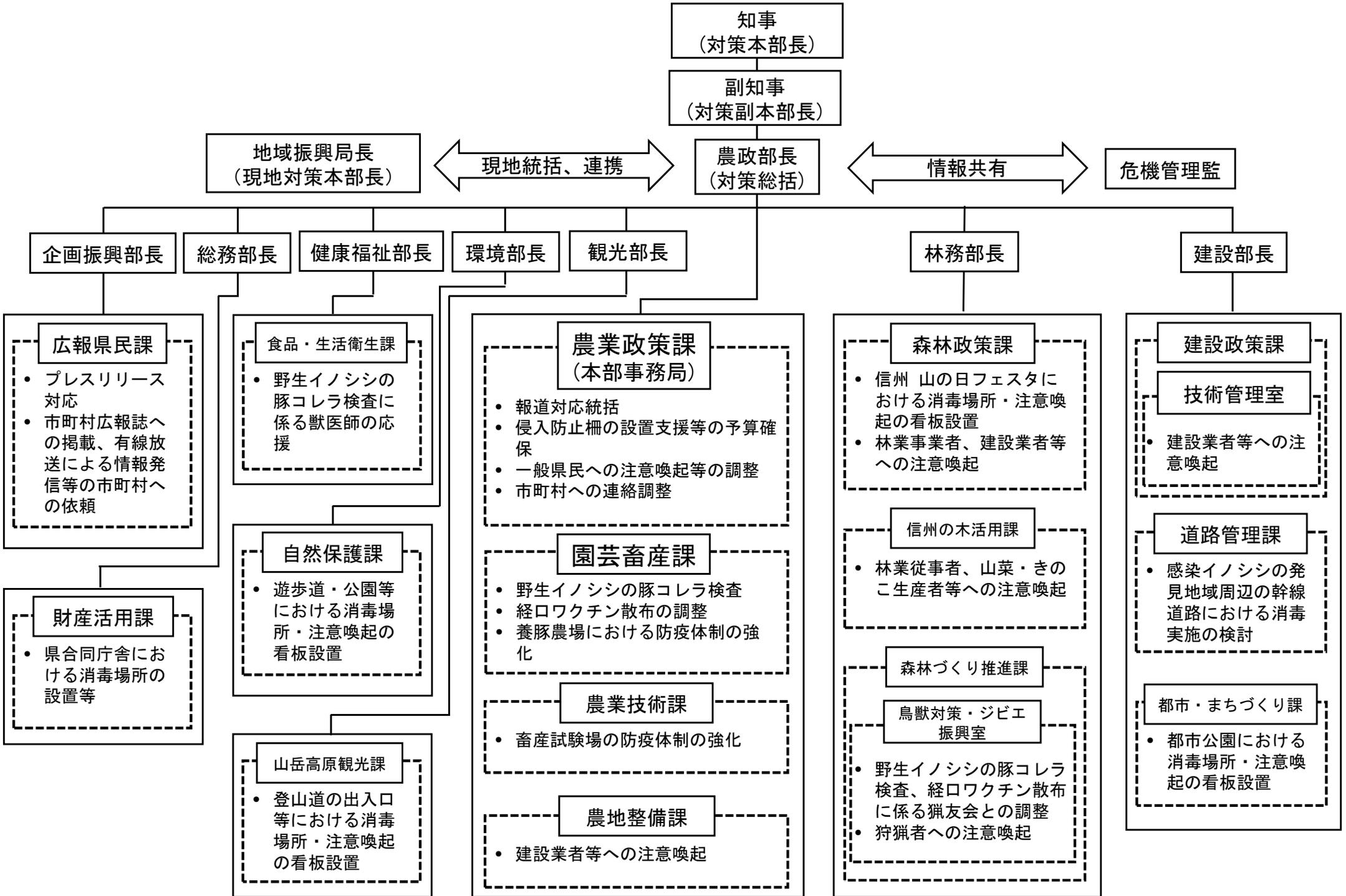
エ. 県、市町村、野生鳥獣対策関係者の防疫対策の徹底

- ① 合同庁舎等県関係機関における消毒・防疫対策の徹底
- ② 市町村等における消毒・防疫対策の徹底を依頼

オ. 地域住民・登山者等へのまん延防止のための対策の強化

- ① 県ホームページにおける注意喚起文の掲載（7/12 実施済）
- ② 市町村等への住民への周知依頼（広報誌等の活用）
- ③ 指定登山道、県管理の遊歩道・公園等における消毒場所・注意喚起看板の設置
（7/26 から順次実施・消毒：11 か所、看板：53 か所を予定）
- ④ 感染イノシシ発見地域周辺の幹線道路における消毒の実施を検討
- ⑤ 林業事業者・建設事業者等への注意喚起（7/24 から実施）
- ⑥ 信州 山の日フェスタにおける注意喚起（7/28 実施）

野生イノシシにおける豚コレラ防疫対策に係る体制について



養豚農場における防疫対策の強化

1 専任チームによる防疫体制の確認及び指導の実施

実施体制：地域振興局(補助事業の担当者)、家畜保健衛生所(衛生対策の担当者)、農業技術課専門技術員(鳥獣対策の担当者)による専任チームを編成

実施内容：専任チームが養豚農家を全て巡回し、以下の事項の個別の対応について相談に応じる

- ①農家の困っている事項等の聞き取りと県組織内での共有
- ②野生イノシシや小動物の侵入防止への助言と補助事業の説明
- ③出入りする人・車両の消毒等の豚コレラ侵入防止対策について確認、効果的な方法について指導

実施時期：①南信州地域(16戸)は7月5日までに実施済み

- ②松本地域(11戸)、上伊那地域(4戸)へはチームによる巡回指導についての公文を発出し、直ちに実施できるよう準備中
- ③その他の地域も早急に実施する

2 イノシシの侵入防止柵等の設置支援

1の専任チームの巡回により農場ごとに最適な設置方法の検討を行い侵入防止柵等の設置を進める

(1) 家畜防疫対策緊急支援事業(予算額 10,000 千円、県単)

- 長野県養豚協会を事業実施主体に、電気防護柵、防鳥ネット、その他の柵について設置経費の1/2を補助する事業
- 南信州地域においては、物理柵の設置を早急に進めるため、県から養豚農場の存在する市町村へ補助残の負担を依頼し、各市町村も支援を行っていただき実質農家負担なしで事業を実施している

(2) アフリカ豚コレラ侵入防止緊急支援事業(国庫補助事業、国予算額 60 億円)

- (独)農畜産業振興機構(以下、ALIC)の事業として8月上旬に新たに創設予定
- 農場を囲う柵の設置経費の1/2を補助
- 事業要綱の制定は8月上旬、着工は9月中旬になる見込み

(3) 今後の推進方法

- 県及び国の事業を活用して県下全域で早急に侵入防止柵等の設置を進める
- また、迅速かつ着実に柵等が設置されるよう、市町村の補助について協力を依頼し、実質的な農家負担をなくすよう取り組む

3 ネズミ・昆虫等の対策の推進

ネズミ等の小型野生動物が養豚農場へウイルスを媒介している可能性も指摘されているため、ペストコントロール協会のネズミ・昆虫対策の専門家へ協力を依頼し、1の専任チームの巡回へ同行してもらい現地指導を行う。

予防対策の重要ポイント



① 人・物・車両によるウイルスの持込み防止

- ・**衛生管理区域、豚舎への出入りの際の洗浄・消毒の徹底**
- ・衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底
- ・人・物の出入りの記録
- ・**飼料に肉を含み、又は含む可能性があるときは、あらかじめ摂氏70度・30分間以上又は摂氏80度・3分間以上の加熱処理を徹底**

② 野生動物対策

- ・飼料保管場所等へのねずみ等の野生動物の排せつ物の混入防止
- ・豚舎周囲の清掃、整理・整頓
- ・**死亡家畜の処理までの間、野生動物に荒らされないよう適切に保管**

野生イノシシ対策の強化

【経口ワクチンの散布】

○目的

豚コレラのまん延を防止し、飼養豚への感染リスクの低減化を図るため野生イノシシへの経口ワクチンを散布する。

○これまでの対応

1 緊急散布の実地

7月13日以降、木曾町及びその周辺地域、根羽村において、相次いで感染事例が確認されたため、県独自で緊急的に同地域において経口ワクチンを散布した。

< 散布状況 >

項目	木曾町周辺	根羽村周辺	合計
散布日	令和元年7月19日（金）	令和元年7月22日（月）	
対象エリア	木曾町及び木祖村国道19号線及び県道26号沿いの山麓 40km ²	根羽村及び平谷村の国道153号線沿いの山麓 40km ²	80km ²
散布箇所	20カ所	20カ所	40カ所
散布量 （必要量）	20個程度/1カ所 [※] (400個)	20個程度/1カ所 (400個)	(800個)

※1カ所：各地域とも中山間地域であり、散布箇所は地理的条件を考慮して2.0km²で1箇所を選定、1箇所当たり10穴・20個（2個/穴）の散布として計画

○今後の対応

1 県独自による緊急散布の実施

塩尻市で発見された死亡イノシシの豚コレラ感染例で、半径10キロ圏内（調査対象区域）に養豚場2戸が含まれたことから、周辺地域でのまん延防止のため、松本地域、上伊那地域及び諏訪地域で7月29日（月）に緊急散布を実施する。

(1) 散布場所

- ア 塩尻市周辺の山麓
- イ 辰野町及び伊那市周辺の山麓
- ウ 諏訪市周辺の山麓

(2) 散布方法

市町村及び猟友会の協力により散布箇所を選定し県職員を動員

2 国事業を活用した本格散布

(1) 実施体制

8月に県、関係市町村、県猟友会、県畜産会、県獣医師会等から構成される協議会を立ち上げ、農畜産業振興機構（ALIC）事業を活用して本格的な経口ワクチン散布を実施する。

(2) 散布計画

区 分	内 容
実施時期	8月下旬から9月にかけて
散布地域	南信州地域、上伊那地域、松本地域等 ※発生状況を踏まえ効果的なエリアで実施
散布数量	面積：約200km ² 、散布箇所100カ所 散布数量：約2,000個
散布方法	県機関、関係市町村、猟友会の連携・協力により散布地点を選定 散布作業等は民間業者に委託 <具体的方法> 餌付け ⇒ ワクチン散布 ⇒ 回収 ⇒ サーベイランス ⇒ 評価

※さらに年度内に追加的な散布を実施予定

散布地域については、野生イノシシでの豚コレラ感染状況を踏まえて調整する

コガラ登山口から入山される皆様へのお願い

木曾地域の山林において、**豚コレラウイルス**に感染した野生イノシシが見つかっています。

豚コレラウイルスは、物について運ばれる恐れがあることから、感染拡大を防ぐため、**下山後は靴底などの泥をよく落とし**、石灰を踏んで靴底を消毒してください。

なお、豚コレラは豚・イノシシの病気であり、人には感染しません。